

事務事業名		観光センター管理運営事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業																														
政策体系	政策名	0 1 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間																															
	施策名	0 3 にぎわいあふれる商業・観光の推進		区分																															
	基本事業名	0 3 観光宣伝の充実		単年度繰返																															
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入																															
所属	部課名	商工港湾部観光交流推進室		【開始年度】																															
	課長名	古内 弘一		令和3 年度～																															
	係名	-		事務事業区分																															
	担当者	紀室 繁喜	電話 0192-27-3111	E 一般																															
			内線 114																																
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																															
観光案内や観光情報の発信、物産振興等の拠点として、三陸鉄道株式会社の盛駅に観光センターを設置することにより観光振興を図るため、一般社団法人大船渡市観光物産協会に管理運営を委託する。 綾里駅と三陸駅にも観光センターを設置していたが、令和4年度末で廃止した。				<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金			都道府県支出金			地方債			その他			一般財源			事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金																																
			都道府県支出金																																
			地方債																																
			その他																																
			一般財源																																
		事業費計(A)	0																																
	人件費	正規職員従事人数																																	
延べ業務時間																																			
人件費計(B)		0																																	
トータルコスト(A)+(B)		0																																	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称	
三陸鉄道盛駅において実施する市内及び周辺の観光案内や見所の紹介等の業務、観光情報の発信、施設等を活用した観光案内及び観光・物産振興、施設の管理及び環境整備等		ア	観光センター数
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	
三陸鉄道盛駅における市内及び周辺の観光案内や見所の紹介等の業務、観光情報の発信、施設等を活用した観光案内及び観光・物産振興、施設の管理及び環境整備等		ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		名称	
・潜在的な観光客		カ	日本の人口
		キ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		名称	
・当市への観光客の増加		ク	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
・大船渡市を訪れる。 ・魅力がPRされ、認知度が高まる。		名称	
		サ	観光入込客数(暦年)
		シ	宿泊者数(暦年)
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度						
				2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	0	8,189	9,112	3,130	3,130	3,130	
	事業費計(A)		千円	0	8,189	9,112	3,130	3,130	3,130	
	人件費	正規職員従事人数	人	0	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	0	20	20	20	20	20	
		人件費計(B)	千円	0	80	80	80	80	80	
		トータルコスト(A)+(B)		千円	0	8,269	9,192	3,210	3,210	3,210
⑤活動指標		ア	件	0	3	3	1	1	1	
		イ								
		ウ								
⑥対象指標		カ	千人	0	125,071	124,554	124,348	124,348	124,348	
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	千人	0	484	584	638	797	817	
		シ	千人	0	132	159	139	228	234	
		ス								

事務事業ID	1816	事務事業名	観光センター管理運営事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	一般社団法人大船渡市観光物産協会は、平成26年度より復興支援員制度を活用して観光振興支援員を雇用し、観光センターの運営など観光振興に取り組んできた。この制度の令和2年度での終了に伴い、観光施策の効率的・効果的な推進を図るため、令和3年度より、観光センター管理運営事業を実施した。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	当市の震災後における観光客入込状況は、平成26年の約112万人をピークに年々減少傾向であったが、令和元年は、前年比13%増の789千人と増加に転じた。しかし、令和2年の観光客入込状況は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、前年比45%増の430千人と大幅に減少した。令和3年、4年も厳しい状況が続いており、観光情報発信等による認知度向上の取組が重要となっている。 また、令和元年度に、業務を委託していた大船渡市観光物産協会より、観光センター運営事業からの撤退の意向が示され、令和2年度に関係団体や地域との協議を進め、綾里駅・三陸駅の観光センター運営事業を令和4年度で終了することとした。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	関係者からは、当市の観光振興の推進を求める意見が寄せられている。 また、令和4年度をもって廃止した三陸町観光センターについて、令和5年6月から、利用を希望する団体による観光案内等施設としての活用が図られている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ▽ 理由・内容 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつかか？意図することが結果に結びついているか？ 当事業は、にぎわいあふれる観光の推進に向けた市の政策に直結する。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ▽ 理由・内容 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光客が回復傾向にある状況において、近隣自治体に遅れを取らないよう、市がアフターコロナに対応した誘客に資する事業を行う必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ▽ 理由・内容 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 潜在的な観光客を対象とした事業の実施により、当市への観光客の増加を目指すことは妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない ▽ 理由・内容 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 平成26年の約112万人をピークに年々減少傾向であった観光客数が、観光振興の各種取組の成果により、令和元年は、前年比13%増の789千人と増加に転じた。令和3年は新型コロナウイルスの影響により減少したが、令和4年、令和5年と回復傾向を見せており、継続した取組による成果の向上は期待できる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある ▽ 理由・内容 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 廃止・休止した場合、観光客へのサービスの低下につながり、観光客が減少する恐れがある。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 令和4年度末において、綾里・三陸の観光センターを廃止したことで事業費を削減できたが、盛駅観光センターは三陸鉄道とJR大船渡線BRTの結節点でもあり、三陸鉄道及び大船渡線BRT利用者への観光案内窓口としての重要性は高く、これ以上の事業費の削減余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 職員の事務は、委託契約事務、進捗管理等、必要最小限となっており、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ▽ 理由・内容 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 受益者は観光客、市民であり、公平と言える。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																					
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度末で、綾里・三陸の観光センターを廃止したことでコスト削減が図られた。 ホームページやSNSなど、多様な手段を活用した効果的な情報発信に努めていく必要がある。
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																							

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
2 改革改善(縮小・統合含む)	観光客等の利用の少ない観光センターについては廃止するが、存続する観光センターについては、効率的な観光情報の発信を行うなど、観光客の増加に資する取組を進める必要がある。